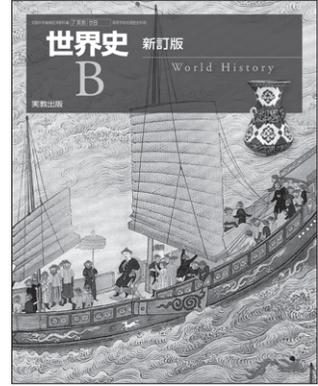
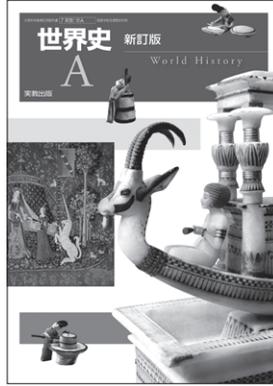


平成 29 年度用

平成 29 年度よりご使用いただける改訂教科書を執筆者が



新版世界史 A 新訂版

近年、授業以外のさまざまなことにも教員の負担は大きくなるばかりである。さらに、生徒の歴史離れ、とくに世界史はその度合いが強く、日々の授業実践に苦しむ先生方も多い。そういった状況のなかで、この教科書は、コンパクトでありながら生徒の興味・関心をとらえ、考えたり、作業をおこなってもらおうという趣旨で生まれてきた。今改訂では、その趣旨を一層高めるとともに、授業をテンポよく進めることにも考慮した。特色を以下にあげる。

薄い、でも視覚的なイメージが広がる

頁数を抑え、文字数も減らしてあるが、見開き形式で絵画や地図をふんだんに取り込み、その時代や地域のイメージをひろげる工夫をしている。また、そこには、**歴史の舞台**、**Key Person** や **日本と世界**、**補説**、**コラム**があり、単元をさまざまな視点で扱っている。

考えたり、作業の体験を重視する

左頁上に、**考えてみよう**を設け、図版や表・グラフなどを読み取って考えたり、興味を持つ工夫がなされている。これは授業の導入時だけでなく、途中での掘り下げや、授業後の復習課題とすることも可能である。同様の趣旨で**やってみよう**を各所に置いて学習の幅を広げている。

時代や地域の感覚を体感できる

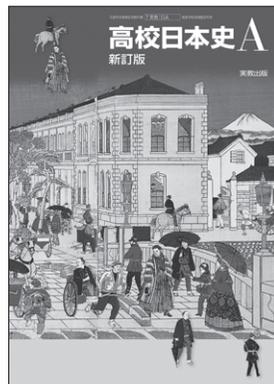
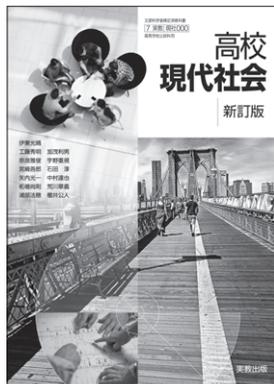
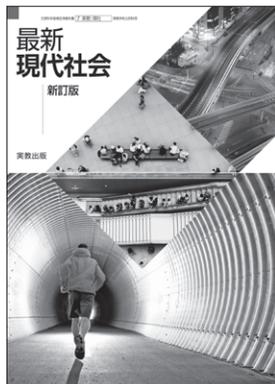
授業でおこなっている時代が日本の歴史でどのあたりになるのかは以前より示してきた。今改訂では、世界史のチャートを用意し、左頁で、他地域の同時代の出来事や同じ地域でどの時代にあたるのかを示す工夫をした。いずれにしても、頁と頁を「あわせる」という作業を通じて、その時代や地域の特色について体感できるようにした。また、授業がどの地域をやっているのかわかるように略地図を左頁上で示している。

臨機応変に、深めたり、簡略化できる

Exploring World Historyという同時代の世界を概観する歴史地図を解説や図版とともに掲載して学習者の利便をはかっている。また、**部扉**や**I部のまとめ**を置き、学習の概要を把握させたり、簡略にまとめることができるようにした。そして、**テーマ**や**特集**で、内容を深めたり、反対に読む程度の簡略な対応もでき、授業進度の調節を可能にした。そのことは新たな副教材とリンクすることで一層強化されている。(前神奈川県立柏陽高等学校教諭 松木 謙一)

改訂教科書のご案内

ご紹介します。ご検討の参考にしていただければ幸いです。



高校日本史 A 新訂版

◆「歴史のまど」から時代を覗き込む

『高校日本史 A』のコンセプトは明確である。それは、高校生が学びやすく、教員が教えやすい教科書作りを徹底してめざしたということである。

1テーマ2ページ、合計52テーマの構成となっており、「A」の標準単位2単位で実施する、1年間の実際の授業時数を考慮したテーマ数となっている。生徒にとっては自習するためのペースメーカーとなり、教員にとっては年間の授業計画が立てやすい構成となっている。

また、単元の冒頭に「歴史のまど」を配置し、授業の導入に使えるように工夫している。「まど」は名前の通り、生徒がその時代に入り込む窓口の役割を与えている。そのため、「まど」は本文記述とは違い、より具体的でエピソード性の高い記述となっており、読みやすくするためすべてを10行以内にまとめている。単元のテーマをすべて疑問文にしているのは旧版と同様であるが、生徒はその疑問を持って「まど」を覗き込み、問題意識を膨らませて、本文を読むことで、単元冒頭の疑問を解き明かしていくというイメージである。

◆理解を深める多彩なコラム

本書のもうひとつの特徴が「ズームイン」と「歴史の群像」、「歴史を考えてみよう」のコラムである。本文の記述が104ページであるのに対して、3つのコラムを合わせて38ページを割いている。本文記述の三分の一以上をコラムに充てている教科書は他社には見られない大きな特徴である。

「ズームイン」はその名の通り、本文記述をより焦点化し、理解を深めるための記述であり、「歴史の群像」も同様に、生徒の興味関心を喚起しやすい人物を通して、本文の内容理解を広げるものとなっている。それゆえ、取り上げたテーマには本書の特色が明確に表れている。具体的には沖縄やアイヌの歴史、女性史、そして韓国や中国と日本の関係などが取り上げられている。歴史を様々な立場から見ることによって、いわば複眼的な思考力を養おうというねらいをもっている。

そして今回の改定に際して新たに加えたものが「歴史を考えてみよう」である。次期学習指導要領から本格的に導入されるアクティブ・ラーニングに合わせて、領土問題や植民地支配の問題など、現代的課題にもなっている5つのテーマについて、討論授業の具体例を示している。生徒が討論を通じて論理的思考力を高め、歴史認識を深めていくことを目指している。

(千葉県立千葉女子高等学校教諭 榎澤 和夫)

世界史 A 新訂版

「世界史の秘密」意外に知られていないことがらなのですが、日本ほど詳しく世界の歴史を学ぶ国は稀です。私は、これを「世界史の秘密」と呼ぶことにしています。それは、日本がアジアの一角に位置しながら、欧米をモデルとして急速な西洋化を経験したことと関係があります。また、日本が世界に与えた影響も大きいのです。こうして、日本では詳しく世界史を学ぶことになりました。「世界史」には、じつは「日本史」の個性も刻まれているのです。

2015年の世界 世界史Aの編集作業を進めていた2015年には、歴史的事件が数多く起こりました。テロ事件の頻発、イスラーム世界の混沌やヨーロッパへの難民流入問題などがそれです。こうした事件は、突然起こったわけではありません。この教科書では、古代や中世における地域世界の展開に配慮しながら、近現代史を重視して、21世紀の世界や日本がどのような課題に直面しているのかを描くことにつとめました。2015年は観測史上最も暖かかった一年のようです。テロ事件直後のパリで、COP21が開催され、温暖化対策への合意が生まれました。実現への道りは険しいものになるでしょうが、利害を調整して合意をみたのは、気候変動への危機感が共有されたからでしょう。

「世界史教科書は、世界史を学ぶ高校生のためのものである」私たちは、このことを常に意識しながら、編集作業を進めてきました。21世紀半ばに壮年になる高校生たちにとって、温暖化は、もっとも大きな問題かもしれません。それを組み込んだ歴史叙述はようやく緒に就いたばかりですが、こうした新たな動向を取り入れること、事項を精選し、世界や日本の「来し方」を的確に理解することができるよう配慮することが私たちの仕事であると考えています。

世界史への期待 2015年は歴史認識をめぐる問題でも大きな節目となりました。現在ほど、世界史にかかわる歴史的理解が求められる時代はありません。「世界史」こそが、日本と同様に詳しくそれを学んでいる中国や韓国などの関係の基礎となるのです。私たちは、この教科書を通じて、より多くの高校生たちが、自らの「行く末」への関心を高めることをつよく願っています。
(青山学院大学教授 飯島 渉)

世界史 B 新訂版

この「世界史B新訂版」は、これまでの「世界史B」教科書で私たちが重視してきた点を基本的に引き継いでいます。すなわち、豊富な地図や写真で視覚的にも魅力があり、高校生の方々が自学自習できる分りやすい教科書となっています。そして、世界の各地域それぞれの展開と地域間のつながりが共に視野に入ってくるような構成と叙述の仕方が工夫されています。頁の端につけられている色をたぐっていくと各地域の歴史を一貫してたどることができ、何カ所も設けられた「**世紀の世界」という見開き頁を見るときは「輪切り」にした世界像に接することができる点はその一つです。また第二次世界大戦後の歴史について、まず国際関係の変遷を冷戦の終結時まで追っていったうえで「戦後の南北アメリカと国際関係」といった形で国際関係との関連を示す年表を示しつつ、各地域について叙述する構成をとっているのも、同じ目的にそった別の工夫です。

また、コラムを豊富に設けて、高校生の方々のさまざまな関心に応える内容を盛り込んでいます。「世界史の探究」というコラムでは、「スカンディナヴィアからみた中世」といった風に多様な切り口から世界史に迫る手掛かりが示してあります。「世界史のなかの日本」というコラムでは、「近代日本にやってきたムスリム」のように日本と世界のつながりを考えるための興味深いテーマが取り上げられています。また「世界史のなかのジェンダー」コラムは、「近世ヨーロッパの女性」とか「近代中国の女性」など女性を軸として各時代、各地域をみる視点を提示しています。

私自身は、こうした高校世界史の教科書執筆に携わるようになって35年余りになりますが、教科書の質がどんどんよくなっているということを感じています。この「世界史B新訂版」は、これまで教科書執筆に関わってきた方々の努力のうえに、現執筆者たちが精魂をこめて新たなアイデアを盛り込み（たとえば中世ヨーロッパにラテン＝カトリック圏、ギリシア正教圏といった概念を適用）、叙述をさらに磨いた結果として完成しました。多くの高校生の方々に満足して使っていただけるものと確信しています。
(成城大学教授 木畑 洋一)

最新現代社会新訂版

今回は、現行学習指導要領の下で大規模な改訂となりました。資料集も兼ねられるように図説や写真などを十分に掲載し、「Q&A」や「時事コラム」、地図や写真をふんだんに盛り込んだ「ビジュアル特集ページ」、といった特徴を継続させながら、今回は以下のような点に考慮して執筆・編修作業にあたりました。

第一に、法教育の充実です。現行版でも、ナビ「刑事裁判と裁判員制度」やQ&A「立憲主義って何？」で取り上げてはいましたが、法そのものに関しては十分に触れていませんでした。そこで新たにナビとして「法の意義と役割」を掲載し、携帯電話の扱いに関するルールといった身近な話題から法の役割を主体的に考察する教材を取り上げました。

第二に、労働分野に関して特集ページを増やしました。現行版でもナビ「就職と労働者の権利」で、求人票の見方や各種の労働問題を取り上げていますが、たとえば求人票の資料はスペースが小さく、十分に活用しきれないきらいがありました。改訂版では特集ページを4ページに増やし、ナビ「求人票を見てみよう」は進路指導にも使える内容となり、ナビ「労働問題」では、職場で生じる労働問題を具体的事例で取り上げ、給与明細の見方なども掲載しています。

以上の特集ページを作るため、他の分野では重複する教材を一部精選し、それに伴い、現行版でも採用していた一節2ページ見開き構成を徹底しました。

また新たな取り組みとして、本文と図版資料の関連性を明確にするため、本文の該当部分と図版資料に共通の番号を示し、両者の対応関係を明示しました。こうした工夫により、先生方が指導する際に資料を活用しやすくなり、高校生にとっても、自学自習がしやすい配慮をしました。

最新現代社会は、実教出版のもう一つの『高校現代社会』に比較して、資料やイラストを盛り込んだ親しみやすい内容となっています。いっぽう、各種の資料や特集ページも含めると、教材内容としてはかなりの分量となり、大学入試センター試験にも十分対応が可能です。各校の実情に合わせて活用していただければ幸いです。
(東京都立新宿高校教諭 飯島 博久)

高校現代社会新訂版

◆「わかりやすさ」「つかいやすさ」をプラス

『高校現代社会』は、これまで記述の詳しい教科書として評価をされてきましたが、今回の改訂では、既刊の詳しさに、「わかりやすさ」と「使いやすさ」をプラスすることを心がけました。経済理論をわかりやすく解説するQ&Aとしては、「インフレ・デフレの生活への影響とは？」(p.205)と「公開市場操作って何？」(p.210)を新たに加えました。また、「世界の飢餓状況」(p.22)、「戦後の日本経済を概観できる年表」(p.224～p.225)、「地域経済統合」(p.273)など、多角的な読み込みができる図版を取り入れたことによって、学習効果がより高まることが期待されます。

◆最新の情勢を反映

「現代社会」や「政治・経済」の教科書では、時々刻々と変化する社会情勢にどれだけ対応して行けるかが常に課題となります。今回の改訂では、「地球温暖化対策の枠組み」(p.15)でCOP21とパリ協定、「格差から貧困へ」(p.229)で子どもの貧困問題、「メガFTAと日本」(p.279)でTPPの大筋合意など、Seminarの内容を刷新するとともに、各項目について最新の情勢をできるかぎり反映させるよう努めました。

◆「思考・判断・表現力」を身につけさせる工夫

「現代社会」の学習においては、現代社会の諸課題について主体的に考察し、公正に判断する力を身につけることが求められています。また、議論を通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなどの課題追究的な学習は、アクティブ・ラーニングの観点からもますます重視されるようになってきました。

本書では、各章のはじめのintroduction(p.6～7など)や第1編の節末(p.16など)、Seminarの冒頭(p.219など)に具体的な課題例を設置して、生徒が自分の考えをまとめ、それを他者によりよく伝える表現力を育成できるよう工夫しました。

また、既刊より引き継いだ「法 SEMINAR」は、18歳投票制が始まった今日、主権者教育に十分資する内容となっています。
(元千葉県立東葛飾高等学校教諭 石塚 誠)